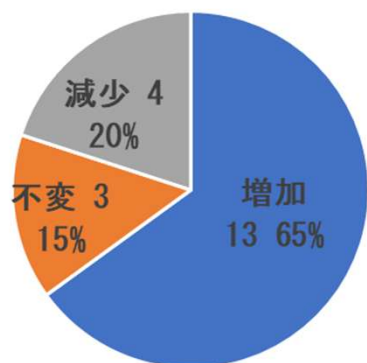


令和7年度景況調査

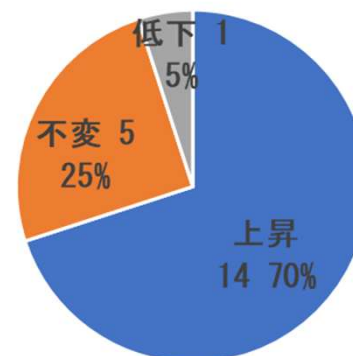
第四四半期(1月～3月)

①調査結果（その1）

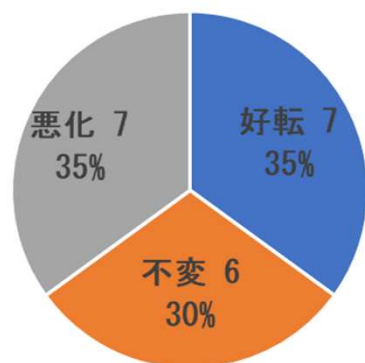
売上高の状況（前年同期比）



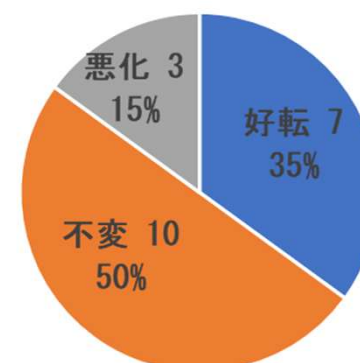
仕入高の状況（前年同期比）



経常利益の状況（前年同期比）

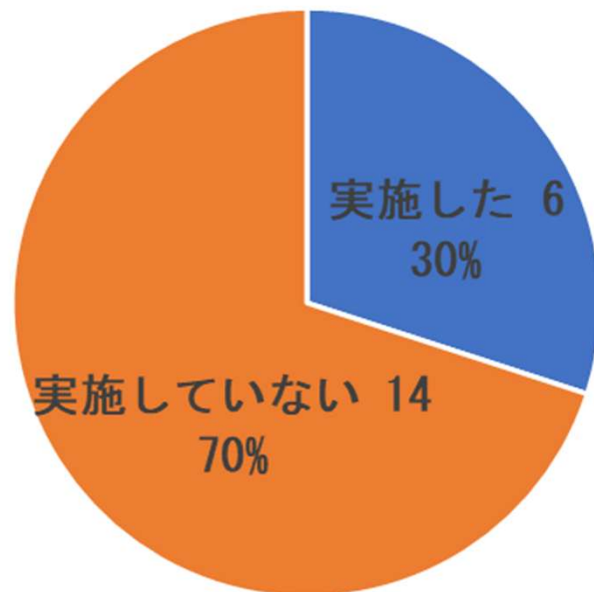


自社の業況（前年同期比）

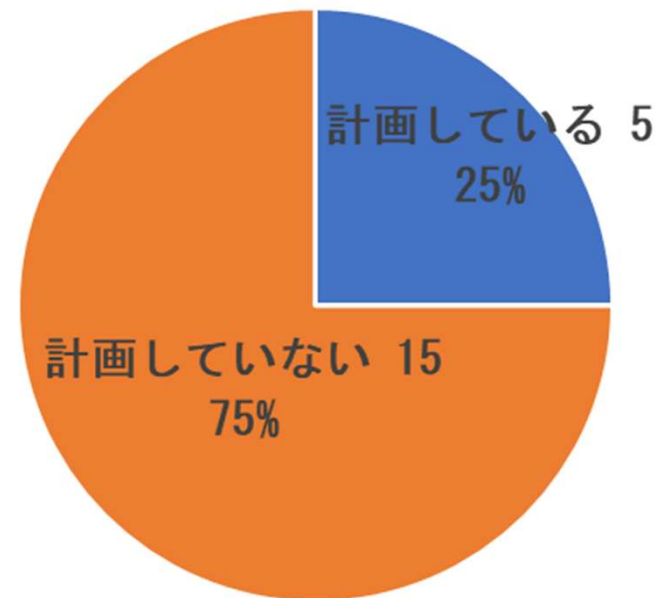


①調査結果（その2）

設備投資の実施（今期）



設備投資の実施（来期）



②分析結果

売上高は、調査対象事業所20社のうち65%（13社）が前年同時期と比較して「増加した」と回答。仕入高は70%（14社）が「上昇した」と回答。

経常利益は「好転した」が35%（7社）にとどまった。売上の増加以上に仕入価格が高騰し、利益を圧迫している事業所が増えていることが窺えます。

自社の業況は「好転した」が35%（7社）、「不変」が50%（10社）と回答。業況は回復基調にあるものの、人材不足や価格転嫁等の課題は残っている状況です。

設備投資については、30%（6件）が今期で実施したと回答。来期実施予定も25%（5社）と低調。先行きの不安や設備価格の上昇が設備投資の足かせになっています。

商工会はこうした状況を踏まえながら、国や県、町の支援施策を有効に活用し、経営課題の解決に努めてまいります。